

# 講 義 要 項

授業科目		栄養・代謝学		担当者	岡元 理恵
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後
	1 単位	30 時間	講義・演習		1年次・前期・後期
授 業 目 標					
生命の維持に必要な栄養素の役割と、代謝に関する基礎知識を習得することができる。また食と健康のかかわりから対象の食生活に関与できる食事療法が理解できる。					
単元名	目 標	内 容	時間	単位	授業方法
1. 栄養と健康	人間の栄養状態と健康との関係性について理解できる。	1. 栄養を学ぶということ 2. 保健・医療における栄養学 3. 看護と栄養 1) 食事における看護師の役割 2) チーム医療・地域医療における栄養ケア	2		講義
2. 栄養素の種類と働き	さまざまな栄養素の種類と働きについて理解できる。	1. 糖質 2. 脂質 3. タンパク質 4. ビタミン 5. ミネラル 6. 食物繊維	3		講義
3. 食物の消化・吸収・代謝	食物を体内に取り入れ、消化・吸収・代謝を行うことで栄養素を取り入れていることが理解できる。	1. 食物の消化 2. 栄養素の吸収 3. 血漿成分と栄養素 4. 栄養素の代謝	4		講義
4. エネルギー代謝	生体内で行われるエネルギーの獲得と変化について理解できる。	1. 食品のエネルギー 2. 体内のエネルギー 3. エネルギー代謝の測定 4. エネルギー消費	4		講義
5. 食事と食品	18品目の食品群の分類と食品の特徴を理解できる。	1. 食事とその変遷 2. 食事摂取基準 3. 食品群とその分類 4. 食品に含まれる栄養素 5. 食品の調理	4		講義
6. 栄養ケア・マネジメント	栄養ケア計画の実際を学び、栄養ケア・マネジメントの基礎的知識を理解できる。	1. チームアプローチと栄養ケア・マネジメント 2. 栄養スクリーニング 3. 栄養アセスメント 4. 栄養ケア計画 5. 栄養モニタリング 6. 栄養ケア・マネジメントの評価	4		講義
7. 栄養状態の評価・判定	栄養アセスメントの意義を理解し、栄養状態の評価・判定をするための具体的方法を学ぶことができる。	1. 栄養アセスメントの意義 2. 栄養アセスメントの方法 3. 栄養状態の総合評価	4		講義
8. 食事療法	食事療法の基礎的知識が理解できる。	1. エネルギーコントロール食 2. 塩分コントロール食 3. 脂質コントロール食 4. 演習：食事指導	4		講義・演習
修得試験			1	1	

参考文献等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(3), 栄養学, 医学書院.</li> <li>2. 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法</li> <li>3. 糖尿病食事療法のための食品交換表, 日本糖尿病学会編</li> <li>4. オールガイド食品成分表, 実教出版.</li> </ol>
評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 単位修得試験</li> <li>2. 出席状況</li> <li>3. 提出物</li> </ol>
備考	<p>実務経験：管理栄養士として豊富な実務経験を活かした授業を行う。</p>